

「光への手紙」

「お父さん お父さん」
君はいつもそう呼んでしたってくれる
「お父さん 大好き」
その言葉だけで父さんは満たされるよ
同じ年の子どもよりも 上手にはしゃべれないけど
一生懸命 君の言葉で話してくれるよね
いつか 父さんが自分の仕事をしているときにやって来て
何かを作ってって言ってきたよね
君は懸命に説明するんだけど 父さんよくわからなくて
いらいらしちゃって つい君につらくあたってしまった
そんな父さんなのに 君はニッコリ笑って
「お父さん ありがとう」って言って部屋を出て行った
父さん、その後すごく後悔したんだ
自分の用事なんて後回しにして
もっとしっかり君と向き合えばよかった・・・
ごめんよ
言いたいことが伝わらなくて 歯がゆい思いをしているのは
そうだよ 父さんよりも君の方なのに
父さんは今 壁にぶちあたっています
押しつぶされそうです
君の大好きなウルトラマンのように
優しさも 強さも 勇気もありません
すぐ怒っちゃう父さんでも
弱い父さんでも 好きですか
いくじのない父さんでも
頼りのない父さんでも 好きですか ねえ 光
いつか君が 父さんの子どもでよかったって
思ってくれる そんな父親になりたいです
そして父さんは 君の父さんになれてよかったと
今日も昨日も そしてこれからもそう思っています
そして父さんは 君の父さんになれてよかったと
今日も昨日も そしてこれからもそう思っています